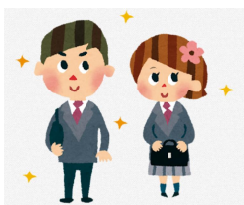


高校の種類・受験制度を知ろう

中学校を卒業するとどんな学校に通うことができるのでしょうか。具体的には

- ・高等学校（全日制）
- ・高等専門学校（いわゆる国立高専）
- ・サポート校や通信制
- ・特別支援学校（高等部）



と言ったところだと思います。あるいは、これらの学校に進学することを選ばずに、就職する人もいます。

まず、高校の種類から見ていきましょう。

1 公立高校

公立高校の特徴は、何と言っても学費が安いことです。授業料は、次年度に**公立・私立ともに無償**になることが国会で決まりましたが、その他の費用は実費です。例えば、入学金が（5,650円）と、私立（10万円前後）と比較すると非常に安いです。

また、受検料も「2,200円」であるように、私立の「10,000円」と比較しても安いでしょう。（金額はすべて昨年度）

受検制度は2種類あります。下記を参照。

前期選抜（2月初旬）	後期選抜（3月初旬）
作文や面接を課するところがほとんど。独自問題や、実技検査を課するところもある。倍率が非常に高いのが特徴。	県立は学力検査（5教科）が2日間行われる。 市立は初日に5教科。2日目に独自検査や面接等。

※ちょっとマメ知識！

公立高校の入試のことを「受検」といいます。これは、公立高校入学者選抜で実施されるのは「学力検査」です。だから、公立高校では「受検」と表記するのです。

また、「受験票」ではなく、「受検票」とも記します。

2 私立高校

公立と比較すると、学費が高いのが私立高校です。しかしその分、公立には見られない**独自のクラス編成**（特進など）や、**学科**（看護科、調理科など）を設けています。部活動に力を入れているのも特徴ですね。

私立の受験制度も独特です。

専願・推薦	合格したら入学の義務がある。その代わり、一般や奨学よりも合格基準が低く設定されている。「私立高校が第一希望」と考えている人は、オススメです。
奨学・特待	合格者は入学金や授業料の減額などの特典がある。ただし、専願や一般入試より難易度は高め。 最近では受験者数が非常に多く、公立との併願（※）も多い
一般	特典はなし。入学の義務もない。最近では、奨学で合格を勝ち取る生徒が多いので、一般入試の受験者数は少ない。

※併願・・・いくつかの高校をかけもちで受験すること。

私立高校の立場で考えると、専願受験者の方がありがたいことになります。なぜならば、定員を割ってしまうと、高校としては経営が苦しくなりますから、合格すれば必ず来てくれる専願者のほうがありがたいからです。

高校によっては、専願と奨学を組み合わせたり、奨学と一般を組み合わせたりと、できるだけ受験生や入学者を確保しようと工夫がなされています。

今回はここまで。次回は「国立高専」や「通信制」などを特集していきます。